

10月報告書



常陸太田市地域おこし協力隊 梨栽培 石原 恭

行った主な活動

■ 生垣剪定

梨畑にある生垣の剪定を行いました。風通しを良くし、病虫害の発生を減らすことが期待できます。



■ 粗皮削り

病虫害の防除と木の再生を図る目的で、樹皮を専用の道具で削りました。



活動を行った感想など

生垣剪定は高所での作業だったので、少し怖かった。
畑を良い状態で維持するために、生垣剪定や粗皮削りなどといった日頃の手入れが重要だと実感した。

今後の目標など

冬になり、葉がある程度落ちた時期から、余分な枝を切る剪定という作業が始まるので、予め自身で予習して、剪定に備えておきたい。

11月報告書



常陸太田市地域おこし協力隊 梨栽培 石原 恭

行った主な活動

■ 棚上げ、施肥

網棚が低くなっていたため、竹や専用のポールを使って棚を持ち上げた。位置や高さを工夫して設置することで、棚の下での作業も格段にやりやすくなり、作業効率の向上につながった。

棚上げの後に鶏糞（肥料）を撒いた。鶏糞は固まりやすく、肥料散布機が使えないため、20kgの袋を両手で持ち、左右に振りながら撒いた。これまでの作業の中でも特に体力を消耗し、腰に大きな負担がかかり、大変な作業だった。



■ 剪定

不要な枝や伸びすぎた枝を切り落とす剪定を行った。最初はどの枝を切るべきか分からなかったが、師匠の作業を見ながら要点をおさえ、少しずつ自分で判断して切れるようになった。



活動を行った感想など

棚上げは年間を通して行う作業の効率化に大きく関わるため、とても重要な作業であると作業後に実感した。鶏糞を撒く作業では、腰への負担の大きさを痛感した。自身が腰を痛めやすいこともあり、より体に負担のかからない方法を模索し、今後の作業改善を目指したい。

剪定については、まだまだ知識や経験が不足しており、自分の判断だけでは対応しきれない場面も多くあった。分からないことはその都度師匠に質問し、休みの日には関連書籍を読んで学び、少しでも早く技術を身につけられるよう努力する。

今後の目標など

剪定作業は今後も長期間にわたって続くため、1日1日を無駄にすることなく取り組んでいく。ただ作業をこなすのではなく、常に目的意識を持ち、頭を使いながら、効率的かつ効果的に作業を進めることを心がける。

12月報告書



常陸太田市地域おこし協力隊 梨栽培 石原 恭

行った主な活動

■ 剪定

11月中に1人で作業できるようになり、12月も引き続き剪定を行った。分からないことは師匠に確認しながら進め、作業を繰り返す中でスピードが上がっていることも実感できた。



■ 誘引

誘引についても剪定と同様に1人で作業を行った。枝についた花芽の数や枝の長さ、太さなどを考慮し、次の収穫だけでなくその後の年の成長も見据えた作業を心がけた。判断が難しい場合は師匠に質問し、理由や考え方を教えてもらいながら進めた。結果として、選択枝を自分の中で整理する力が少しずつついてきたと感じた。



活動を行った感想など

剪定、誘引のどちらにおいても、多くの判断材料の中から重要な要素を抽出し、師匠と共有することで、木をどのような形に仕上げるべきかの全体像が見えてきたことが嬉しかった。

自分自身が勉強を進めることで、師匠と同じ目線で話ができる場面が増え、モチベーションの向上にも繋がった。

日々の積み重ねが技術向上の鍵であることを改めて感じた。

今後の目標など

より高い判断力と作業スピードを身につけるため引き続き努力していく。また、効率を求めるあまり作業が雑にならないよう、1つ1つ丁寧に進めることも心がける。

1月報告書

常陸太田市 地域おこし協力隊
梨栽培の担い手 石原 恭

行った主な活動

剪定

12月に引き続き、梨の剪定作業を継続して行った。毎日繰り返し作業する中で、剪定の意図や枝の流れをより深く理解できるようになり、自分の中でも「こう切るべきだ」という判断がスムーズにできる場面が増えてきた。進めていたエリアも折り返しを迎え、作業の終わりが見えてきた。



誘引

剪定と並行して、誘引作業も継続して行った。剪定後の枝をどのように配置するかを考えながら、来年・再来年の枝の成長や収穫を見据えて作業した。枝の角度やバランスなど、細かい部分にも目が向くようになってきた。これまで以上に全体像を意識して手を動かせるようになったと感じた。



活動を行った感想など

作業の折り返し地点に入ったことで、日々の積み重ねが少しずつ形になってきた。作業スピードと判断の正確さが以前より上がってきた実感があり、毎日の変化が励みになっている。

作業に慣れてきた分、丁寧さが欠けないよう意識を保つことが必要だと感じる場面もあった。手を動かしつつも「考える」ことを忘れないようにしたい。

今後の目標など

今後も引き続き、作業精度を高めながら、スピードと丁寧さのバランスを意識していきたい。



2月報告書

常陸太田市 地域おこし協力隊
梨栽培の担い手 石原 恭

行った主な活動

■ 剪定・誘引

継続していた剪定と誘引作業が、2月中にすべて完了した。



■ 古木の伐採作業

誘引まで終えたタイミングで、更新対象となる古い梨の木をチェーンソーで伐採する作業にも取り組んだ。あまり経験のないチェーンソー作業ということもあり、安全面に最大限配慮しながら、基本的な使い方や切り方の手順を学んだ。



活動を行った感想など

剪定と誘引を無事に終えたことで、今シーズンの冬作業をやりきったという達成感があった。1年前には考えられなかったような判断が自然とできるようになり、自分の中でも成長を感じた。

チェーンソーがとにかく重く、長時間の作業で筋肉痛になった。棚線に刃が当たるとキックバックすることもあり、いつも以上の集中力を求められる作業だと感じた。

今後の目標など

春から始まる草刈りや摘蕾といった次の作業に向けて、体調を整えながら準備していきたい。



3月報告書

常陸太田市 地域おこし協力隊
梨栽培の担い手 石原 恭

行った主な活動

草刈り

3月はまず、畑全体の草刈り作業から始めた。広い面積を一気に進めるために、最初は乗用の草刈機で畑全体を一通り刈り、その後、乗用機では刈れない畑の端や木の根元などの細かい箇所を刈払機で進めた。

摘蕾

草刈りと並行して、梨の摘蕾作業も行った。摘蕾は、余分なつぼみを落とすことで果実の品質を高めるとともに、開花時の授粉作業で花粉を無駄にしないための重要な工程である。地味な作業ではあるが、果実の大きさや収穫量に大きく影響する大切な作業である。

活動を行った感想など

刈払機での草刈り作業は、畑の棚が低く常に中腰の体勢で動く必要があり、腰への負担が大きいことを痛感した。体の使い方や休憩の取り方を工夫しないと、長時間の作業はかなり厳しいと感じたので、今後の課題にしたい。

摘蕾は、地味な作業ではあるものの、梨の品質や生育にとって不可欠な工程であることを学んだ。

今後の目標など

これから本格的な授粉作業や摘果に入っていくにあたって今のうちに体力をつけておきたい。

